

## 女性の健康課題等についての意見

## 1. 健康課題について

	現状における課題
天野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思春期から超高齢者まで生涯にわたる女性の健康問題について懇談会で取り上げるよう期待している。なかでも、高齢者の健康のあり方について考えたい。</li> <li>○ メンタルケア（コミュニケーションやカウンセリングのスキル）の充実と、東洋医学の充実を訴えたい。</li> <li>○ 男女共同参画と女性の健康。</li> <li>○ 介護・引きこもりを抱えた女性の健康問題。</li> </ul>
石塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年代別・地域別に、健康観やライフスタイルについてのアンケートを行ったらどうか。</li> </ul>
江澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 飽食の時代といわれて久しいが、豊かな食生活とは言い難い。むしろ、欠食・偏食・誤ったダイエットなどの問題がある。</li> <li>○ こうした食生活の乱れが生活リズムを崩し、生活習慣病をはじめとする心と体の健康に影響している。</li> </ul>
岡 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女性の社会進出に伴い、晩婚化・高齢出産の傾向が窺える。その結果、女性にとってのライフイベント（結婚・出産・両親の介護・自己の管理職昇格など）が同時期に重なり、体と心のバランスが不安定（不調）になる傾向が見受けられる。これまでの女性の健康管理は、ともすると女性特有の病気（子宮・卵巣・マンモグラフィ）などに視点があてられがちであるが、ライフバランスのとれた「心と体の健康」に関してのあり方にスポットがあたる対応が望ましいと考える。</li> <li>○ 女性特有の心とからだの有り様や病気などに関して、女性だけの問題としてのアプローチではなく、男性も「性差の理解」が深まるような取組が望ましいと考える。</li> </ul>
河原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提案したい症例 女性の頻尿 尿失禁 軽度発達障害からくる生活困難（家事のできないADHD）</li> <li>○ 検討してほしい事項 医療と美容の融合 化粧が支える女性の人生（なりたい自分になることが自分らしさであるという観点から、女性にとって、化粧をすることが健康に生きる力になる）</li> </ul>

宮野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若い女性は、マスメディアが作り出した(健康美とは対極にある)表面的な美に目が行き過ぎて、過度のダイエット、過度の部分痩せなどにより、健康を損ね、結局、美しさからも遠ざかってしまうといった事例が散見される。</li> <li>○ 女性の美と健康を様々な角度(食事・運動・就労・出産など)から捉えなおし、一定の指針を全女性に知らしめる必要がある。</li> <li>○ 普及啓発活動は、国や関係団体のみならず、市民レベルや企業活動の中にも広げていくべきである。</li> </ul>
三羽委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国民、医療機関ともに、更年期医療に関する情報が共有されていないため複数科受診(ドクターショッピング)が頻発しており、患者本人だけでなく社会的にも不利益が生じている。</li> <li>○ 性差医療の観点に欠如している。例えば、検診項目についても女性に特有の検査項目に配慮がされていない。</li> <li>○ 医療機関、行政機関とも女性が健康問題を相談する窓口として、十分に機能しているとは言い難い。</li> <li>○ 健康保険で扱える医療行為の範囲が狭い。</li> <li>○ 治療に対する自己決定権について患者への普及啓発が必要と考える。</li> </ul>
森尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女性のライフステージの変化に伴う口腔内環境の変化への意識や対応が十分でないために、長寿世界一を誇る日本女性は、高齢期以降においては男性よりも残存歯が少ない状況にある。</li> <li>○ 食べること、話すこと、笑うことは生きる力と喜びの源であるのに、歯の健康美を含め、口腔内を健康に保つことの重要性が忘れられがちである。特に母親の意識が低い場合には、次世代にその影響が及ぶことが懸念される。</li> <li>○ 歯科では男女差が際立っている問題があまり認識されず、妊娠・出産期に注目したもの以外には、これまで女性に特化した取組はほとんどなかった。今後は、思春期から更年期を経て、(超)高齢期に至る女性の心と身体を意識した、歯科としての取組が必要であると考える。</li> </ul>

## 2. 各団体における取組について

	取組の内容
天野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性差医療・医学研究会における取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年1回学術講演会を開催し、最新の知識が医療関係者間で共有できるようにしている。</li> </ul> </li> <li>○ 性差医療情報ネットワークにおける取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本部と6つの地方支部からなる組織で、毎年1回本部において医療者と市民を対象の講演会を実施するほか、各地方支部において年数回ずつの勉強会を実施している。</li> </ul> </li> </ul>
井伊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 看護協会における取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 喫煙の害を指摘し禁煙をサポートするのは看護職の使命として、たばこ対策を実施している。</li> <li>・ 乳がんの早期発見・早期治療の普及啓発活動「ピンクリボンキャンペーン」を実施している。また、乳がん患者とその家族をサポートする専門家を「乳がん看護認定看護師」として認定している。</li> </ul> </li> </ul>
江澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東京骨を守る会の取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨粗鬆症を防ぐために、適切な食生活と運動の重要性を広報している。</li> </ul> </li> <li>○ 骨の健康づくり委員会の設立・活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨粗鬆症予防のためのリーフレットの作成等を行っている。</li> </ul> </li> </ul>
岡 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健康保険組合が当組合の母体と共同して実施している取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女性の健康づくりに役立つメニューを用意し、グループ事業所の特性やニーズに応じて、セミナー開催（健康啓発セミナー・貧血対策セミナー・更年期対策セミナーなど）や情報提供できる体制づくりを進めている。</li> <li>・ チャイルドケアサポートセンターを設置し、妊娠・出産・育児に関するさまざまな不安や疑問を健康面からサポートしている。</li> <li>・ 化粧品業界共通の課題として、女性の喫煙率が高いため化粧品4健保共同事業によるアンケート調査や小冊子作成を進めている。</li> </ul> </li> </ul>
河原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害児の母親に対する化粧による精神的支援、がん患者さんに特有の肌の悩みの解消のお手伝い等をしている。3月はじめに、治療中も美しくあることで、自分自身の免疫力をアップさせるなどの取組の普及を予定している。</li> </ul>

宮野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都道府県薬剤師会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「薬と健康の習慣」(毎年10月17～23日)において健康フェア等を実施している。</li> </ul> </li> <li>○ 日本薬剤師会の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬局から地域住民へ健康情報等を提供するために「年間啓発カレンダー」を作成し、月ごとにテーマを決めて普及啓発活動に取り組んでいる。</li> </ul> </li> </ul>
三羽委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 更年期から始める生涯を通じた健康づくりを提唱している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1996年から、セミナー、電話相談、書籍、ブックレット等にて普及啓発活動をしている。</li> </ul> </li> <li>○ 検診率向上キャンペーン <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年、個人的な記念日に検診を受けることを提案している。2005年から毎年、エッセイを公募している。</li> </ul> </li> <li>○ 骨の健康づくりキャンペーン <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 骨密度検診の勧奨、骨の健康づくりのための食事・運動について啓発している。ビデオ教材の作成、普及啓発活動を実施。</li> </ul> </li> </ul>
森尾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歯科としては、8020運動、歯の衛生週間などに取り組んでいる。</li> </ul>

**(参考)**

**懇談会構成員より送付いただいた資料の一覧**

**天野委員**

- ・ 「性差医療・医学研究会 学術集会 記録誌」(第1回～第3回)  
(医療従事者間で知識の共有を図るために開催された学術集会の記録)
- ・ 性差医療情報ネットワーク研究会の市民公開講座概要  
(性差医療に関する市民公開講座の概要)
- ・ 「女性専用外来の評価に関する報告書」(千葉県)  
(全国に先駆けて開設した女性専用外来の評価報告書)
- ・ 平成17年度、18年度厚生労働科学研究こども家庭総合研究事業報告書  
(女性健康支援のための科学的根拠構築と女性外来の確率に関する研究報告)

**井伊委員**

- ・ 「ピンクリボンキャンペーン」のご案内  
(乳がんの早期発見・早期治療、患者とその家族のケアについて)
- ・ 乳がん看護認定看護師の広報資料

(乳がん看護認定看護師は、乳がん医療の向上のために看護協会が認定している)

- ・看護職とたばこに関する広報リーフレット  
(専門職としてたばこ対策に取り組むための普及啓発リーフレット)

### 江澤委員

- ・東京骨を守る会 NEWS LETTER  
(骨粗鬆症の予防に関し普及啓発を実施する団体の会報)
- ・骨粗鬆症予防のリーフレット  
(骨の健康づくり委員会の発行する普及啓発資料)

### 小山委員 (更年期と加齢のヘルスケア研究会事務局より)

- ・日本更年期医学会ニューズレター  
(更年期症状に関する学術研究会の会報)
- ・都内病院におけるメンタルヘルスを中心とした女性外来の紹介資料  
(女性の健康の向上のための診療・相談・研究を実施している施設の例)
- ・PSYCHO Net  
(女性のメンタルヘルスに関する普及啓発情報誌)

### 三羽委員

- ・日本更年期医学会雑誌別刷  
(ホルモン補充療法に関する研究論文、更年期外来に関する研究論文)
- ・メノポーズを考える会の紹介資料  
(NPO 法人として実施している電話相談、フォーラム等の活動紹介)
- ・NPO 法人メノポーズを考える会ニューズレター  
(メノポーズを考える会の会報)
- ・よくわかる更年期ガイド  
(普及啓発のためのリーフレット)
- ・書籍：更年期一人で悩まないで  
(更年期症状を詳説している書籍)
- ・DVD：メノポーズ健康エクササイズ  
(更年期前後の女性のための健康体操を指導する DVD)